

表3 危害のひどさ（S）の段階分けの例

危害のひどさ（S）	危害のひどさの程度（ ）内は目安の例
S 1	微傷（不休業災害に至らない災害）
S 2	軽傷（不休業災害）
S 3	重傷（休業、後遺障害8～14級）
S 4	重大（3人以上の死傷や、死亡・後遺障害1～7級）

表4 リスク要素：危害が起こる可能性の考慮事項

リスク要素	考慮事項	
危害が起こる可能性	人が危険源に曝される頻度と持続時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険区域<sup>*</sup>への接近の必要性： <ul style="list-style-type: none"> <li>運転中や保守作業時等の作業内容</li> </ul> </li> <li>接近の方法： <ul style="list-style-type: none"> <li>加工機械への材料の手動による挿入など</li> </ul> </li> <li>危険区域内に滞在する時間</li> <li>接近者の数</li> <li>接近の頻度</li> </ul>
	危険事象の発生確率	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼性等のデータ <ul style="list-style-type: none"> <li>機械本体、制御装置、構成部品等</li> </ul> </li> <li>災害履歴</li> <li>健康障害の履歴</li> <li>類似機械とのリスク比較</li> </ul>
	危害を回避又は制限できる可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転者等の特性：熟練、未熟練、知識無し</li> <li>危険事象の発生速度： <ul style="list-style-type: none"> <li>地震のように予測できず不意に発生</li> <li>爆発火災のように高速で発生</li> <li>二酸化炭素濃度の増加のように緩慢に発生</li> </ul> </li> <li>リスク認識：一般情報、直接観察、危険表示</li> <li>回避の人的可能性：可能、条件付き可能、不可能</li> <li>運転体験と知識：同一機械、類似機械、未経験</li> </ul>

表5 危害が起こる可能性（K）の段階分けの例

危害が起こる可能性（K）	発生可能性の程度（ ）内は目安の例
K 1	まれ（機械の使用段階中に1回）
K 2	たま（2～3年に1回）
K 3	時々（年に1回以上）
K 4	頻繁（月に1回以上）